

# 今月のお知らせ

社会教育センター図書室  
☎28・5449

## 休館

資料整理のため、10月31日(木)は、図書室をお休みします。  
11月1日(金)からは平日どおり利用できます。

## 新刊



**児童書**  
いえでをしたてるてるぼうず  
にしまさ かやこ 作  
(3〜5歳向け)

お出かけするみんなにお願いされ、頑張っている天気にしたのに、家に置いていかれた、てるてるぼうず。「こんなおうちにはいたくない」と家出して…。みんなに忘れられ、プンプン怒って、家を飛び出したてるてるぼうずのお話。



**一般書**  
どんな災害でもお金とくらしを守る  
清水 香 著  
(小学館クリエイティブ)

被災して命が助かったあと、必要になるのはお金です。「被災直後」生活再建時「平時」にできること」の3段階で必要になるお金の知識を、Q&A形式で紹介。書き込み式の「お金やくらしに関する情報リスト」も掲載。



**一般書**  
日本の伝統楽器  
若林 忠宏 著  
(ミネルヴァ書局)

三味線・琵琶・箏・尺八・笛・太鼓…。日本の季節や風土などに育まれた日本人の感性にあうように改良され、日本人の生真面目さと器用さによって生まれた日本の伝統楽器と、その音楽の「本当の姿」に迫る。

## 豊山俳句クラブ

青山克己 選

人影がふつと消えたる早道

高木須磨子

三人四人と浴衣で集ふ村祭

山下敬太

北に向く飛行機雲や八・五

田村多喜子

又けふも又と言ひける暑さかな

坪井昭子

星に手が届ひてしまふ夏の山

谷崎 琴

苦瓜にまばらに朝日差し込み

東海林宗義

八月の空や昭和を忘れまじ

杉浦みどり

釣忍ごしに野の風呼び込めり

岡島 齋

ため息を太く吐き出す早行道

青山とも子

コーヒーを飲んでひまわり畑かな

水野眞弓

道半ばくしくもはてる干し蚯蚓

石黒貴代子

勝手口昨日も今日も夏野菜

黒澤裕子

灼熱に晒されし日や月赤し

坪井径子

最寄り駅までの近道蝉しぐれ

青山克己

## 豊山歌壇

水野笑子 選

梅雨入りをまちこがれぬしか風

蘭の純白の花眺ねること咲く

荒川昌枝

若き日に幾度も聴きし「エリーゼ」

を孫のピアノに口遊む至福

アルバムに三人姉妹の写真あり

「はいポーズ」とて手を振りてゐる

吾が夫の生まれ変わりか写真撮る

三歳児の曾孫に血筋を思ふ

名勝の水面に映ゆる花苜蓿墨絵

見ること白鷺佇む

掲げ雲雀紙面に読みて思ひ出づ

麦畑ありしこの地の景色

老い知らず若きままにて逝きし

人無念さ思ふも老いも厳しと

見あぐれば大き満月あかあかと

田の面あまねく照らすひととき

静まりし町の上には満月がいらか

を照らし柿の葉照らす

縋りつき数多の花を咲かせぬる

ものらを見つ我も生きるゑる

何すると言ふこともなく生きて

ゐるこの安穩は誰も同じか

渡辺トヨ子

水野笑子

## 編集後記

今月号から、本町の国際交流員のコラム連載をスタートした。題して「シリアの織月(せんげつ)ジャーナル」。彼女から原稿をもらったとき、同僚と子ども「織月」が読めなかった▼三日月のよな細い月を意味する。しかし、「三日月」は厳密には陰暦三日の月のみを指す。本人も「織月」が日本語として一般的かどうかを気にしていたので、「三日月ジャーナル」にしようかとも思ったものの、そのまま採用することにした▼日本人が読めない言葉にたどりつくまで調べる勉強熱心な一面が伝わるのではないかと。遠く米国から単身でやってきた気概や、順応性の高さについても感服させられる。担当業務は、町と海外との交流事業や英訳など。本町に住む外国人の方々が、地域とのコミュニケーションを進めるきっかけとなるような交流会も予定している▼月は、世界のどこからでも見える。でも、まだ分かっていないことも多い。どこか神秘的に感じ、月には何かあるのだらうとわくわくするのは世界に共通することかもしれない▼シリアにとって豊山町は未知の世界。そんな豊山での暮らしで感じたことや詩などを、毎月楽しみにしていただければ幸いです。